【国土交通省】

平成20年度　地方の元気再生事業　事業実施調書

(1)　取組名	「大阪蔵屋敷ネットワーク」による北前船ルート地域活性化ビジネスモデル構築		
(2)　実施団体名	特定非営利活動法人大阪再生プラットフォーム	(3)　対象地域	大阪市（および最上川流域をはじめ、日本海や瀬戸内海等の北前船ルート各地域）
(4)　代表団体名		(5)　推薦団体名	大阪府、大阪市

(6)実施した取組の内容	**取組①**	蔵屋敷ネットワークの構築	
	実施主体	蔵屋敷ネットワーク協議会（NPO法人大阪再生プラットフォーム、早稲田エコステーション研究所、三津屋商店街、山形県、酒田中通商店街、NPO法人イービーイング等）	
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	実施内容、実施結果	・実施内容：蔵屋敷の認定、蔵奉行の人材育成、蔵屋敷回遊モデルツアーの実施 ・実施時期：平成20年9月～平成21年2月 ・実施場所：大阪市内 ・対象者：大阪で店舗経営している北前船ルートの出身者の中で、地元と結びつきの強い人と店舗を１５箇所程度選定 ・取組の目的：かつて大阪と北前船で結ばれた各地方との交流・連携を現代に復活させるため、大阪で活動する北前船ルート各地方の出身者を地域連携の核となる人材（「蔵奉行」）・交流拠点（「蔵屋敷」）として育成・認定し、水都大阪との間でネットワークを構築し特産物の物流と人の交流を促進する。	・実施内容：蔵屋敷・蔵奉行の認定９箇所（２月中に１５箇所認定）、蔵屋敷回遊モデルツアーの実施（２回実施） ・実施時期：平成20年9月～平成21年2月 ・実施場所：大阪市内 ・対象者：大阪で店舗経営している北前船ルートの出身者で地元との結びつきの強い店舗と人、及び大阪や全国で地域と地域を結ぶ活動をしているコーディネーター ・取組の結果：蔵屋敷・蔵奉行委員会を１０回開催し、食の専門家の参加と指導により、蔵屋敷・蔵奉行ネットワークの基準を、３つのキーワード（①防災や地域に対する「気構え」、②料理や防災の対応力の「腕前」、③地域の生産物を現す「自前」。防災の自助、共助、公助の自助にも通じる「自前」。地産地消でもある「地前」）に設定し、大阪と全国各地を結ぶ蔵屋敷・蔵奉行ネットワークの選定を進めている。蔵屋敷回遊モデルツアーについては、平成20年11月28日、平成21年1月17日の２回開催した。
	取組②	防災ネットワークの構築	
	実施主体	蔵屋敷ネットワーク協議会（NPO法人大阪再生プラットフォーム、早稲田エコステーション研究所、三津屋商店街、山形県、酒田中通商店街等）	
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	実施内容、実施結果	・実施内容：①「災害時の隣のネットワーク協定」の締結 ②川筋防災訓練の実施 ・実施時期：①平成20年9月～平成21年2月 ②平成20年9月～平成21年2月（４回開催） ・実施場所：大阪市及び北前船ルート各地域 ・取組の目的：「蔵屋敷ネットワーク」と「ぼうさい朝市＆昼市」の連携により、日常的に防災への意識を持ち、発災時に機能するネットワークを維持できる仕組みを構築する。	・実施内容：①「災害時の隣のネットワーク協定」の締結（市長メッセージ交換と話し合い） ②防災セミナーと川筋防災訓練の実施 ・実施時期：①平成20年9月～平成21年1月 ②取組③の「ぼうさい朝市＆昼市」と同時開催 ・実施場所：①山形県酒田市、大阪市、岡山県笠岡市 ②酒田市（10/18,19）、大阪市（三津屋）（10/30,11/2）、大阪市（八軒家浜、湊町）（1/17）、笠岡市（1/19） ・取組の結果：「ぼうさい朝市＆昼市」の開催に合わせ、川筋防災訓練と防災セミナーを５回実施し、商店街と地域が連携した防災まちづくりと、いざその時の「隣りからの全国ネットワーク」構築を話し合い、理解を深めた。酒田市と大阪市三津屋では市長間でメッセージを交換、三津屋では大阪府知事、笠岡では市長も川筋防災訓練に参加した。
	取組③	「ぼうさい朝市＆昼市」の実施	
	実施主体	蔵屋敷ネットワーク協議会（早稲田エコステーション研究所、三津屋商店街、酒田中通商店街、鹿児島市宇宿商店街、笠岡市東本町商店街等）	
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	実施内容、実施結果	・実施内容：「ぼうさい朝市＆昼市」の実施 ・実施時期：平成20年11月～平成21年2月（6回開催） ・実施場所：大阪市及び北前船ルート各地域 ・取組の目的：北前船ルートの各地域で特産品の相互交流による物販を川筋で行い、集客により地域活性化を図るとともに、市民が川筋に関心を持ち、日常でも災害時でも川筋を活用できるまちづくりを行う。集客10万人目標。	・実施内容：「ぼうさい朝市＆昼市」の実施 ・実施時期、実施場所：平成20年10月18・19日山形県酒田市、平成20年11月2日大阪市（三津屋）、平成21年1月17日大阪市（八軒家浜、湊町、ほたるまち）、平成21年1月19日（月）岡山県笠岡市（合計6箇所開催） ・参加者：開催地住民７３，０００人の参加と、北海道から鹿児島まで全国１５地域の救援物資に見立てた美味しい特産物と地元の方々が遠路参加。（参加者：酒田市45,000人、三津屋10,000人、八軒家浜3,500人、湊町5,000人、ほたるまち1,000人、笠岡市8,500人） ・取組の結果：北前船ルートの全国１５地域が参加し、各地域と各開催地の人々が情報を共有する「顔の見えるネットワーク」の形成や各地での特産物のピックアップと物流による地域活性化の道筋ができた。また、全国の美味しい特産物というインセンティブにより、地元の商店街と町内会、住民、学校、諸団体間の「防災意識の共有」と協働関係の具体的な実践ができた。

取組④	世界の蔵屋敷ネットワークの構築	
実施主体	蔵屋敷ネットワーク協議会（NPO法人イービーイング、中ノ島・御堂筋SBJ連絡協議会、早稲田エコステーション研究所、NPO法人大阪再生プラットフォーム等）	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	・実施内容：御堂筋の環境景観調査、御堂筋における世界のトップブランドと連携した環境景観対策の企画立案 ・実施時期：平成20年9月～平成21年3月 ・実施場所：大阪市（御堂筋） ・取組の目的：御堂筋沿道のスーパーブランド間のネットワークを構築し、御堂筋の環境と景観の向上を図り、世界に向かって情報発信を行い、大阪への集客力の向上を図る。	・実施内容：御堂筋の環境景観調査、御堂筋界隈における世界の蔵屋敷ネットワーク企画立案 ・実施時期：平成20年12月～平成21年2月 ・実施場所：大阪市（御堂筋） ・取組の結果：パリのシャンゼリゼ通りとも相通ずる御堂筋の素晴らしい景観と世界のトップブランドと世界の料理の店舗集積を、より一層の集客装置にする調査を実施中（～２月）。来年度に世界の蔵屋敷・蔵奉行ネットワークを構築するための調査と、御堂筋における「ぼうさい朝市＆昼市」の開催企画を立案中。
取組⑤	情報ネットワークシステムの構築	
実施主体	蔵屋敷ネットワーク協議会（早稲田エコステーション研究所、（有）ケーモール、NPO法人イービーイング、NPO法人大阪再生プラットフォーム等）	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	・実施内容：特産品物流等の情報受発信システムの構築、有限責任事業組合（LLP）の設立準備 ・実施時期：平成20年9月～平成21年3月 ・実施場所：大阪市 ・取組の目的：蔵屋敷のネットワーク化と各地元との相互ネットワークを構築し、情報と特産品物流の事業プラットフォームとする。	・実施内容：特産品物流等の情報受発信システムのためのHP作成と情報共有のメーリングリスト作成。有限責任事業組合（LLP）の設立準備。 ・実施時期：平成20年12月～平成21年3月 ・実施場所：大阪市 ・取組の結果：本事業を次年度以降も継続実施できる活動母体として、全国ネットワークのLLPとその中核となるコーディネートLLCの構想を固め、立ち上げに向けて全国各地との情報交換を実施。情報発信と情報共有のためのHPは、2月15日を目途に立ち上げる予定。

(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点
	・大阪と北前船ルート全国ネットワークで「蔵屋敷ネットワーク協議会」を形成。 ・大阪では、NPO法人大阪再生プラットフォームが核となり、三津屋商店街とその地域の町会や連携する専門家集団、中ノ島・御堂筋SBJ連絡協議会、NPO法人イービーイング等が主力となって運営。 ・全国ネットワークは、早稲田エコステーション研究所を中心に、酒田中通商店街、笠岡東本町商店街、鹿児島市宇宿商店街、飯山エコステーション店会、NPO法人かさおか島作り海社等々が参加	・この事業によって、特に酒田市、大阪市三津屋地域、笠岡市の3地域においては、地域の商店街が周辺住民を巻き込み、協働で地域づくりを行う気運が高まり、地域が元気になるきっかけとなっており、物流も、防災も、まちづくりも成果を上げて、次年度以降への取り組みの道筋ができた。 ・大阪市内の中之島や道頓堀地域では、今年度の活動で地域の商店街とのきっかけができたので、来年度に向けて地域商店街との連携と情報共有を深めていく必要がある。今年度の「蔵屋敷ネットワーク協議会」を1歩進めて、LLPとLLCを早急に設立して、来年度以降の事業母体とする。 ・事業に実施にあたっては、商店街、大阪府、大阪市との協働による取り組みを行った。

○成果１→	蔵屋敷ネットワークを構築し、地域連携の核となる人材（「蔵奉行」）・交流拠点（「蔵屋敷」）として育成・認定する。
H19	H20（当初予定していた目標）
山形県大阪事務所等の個別人脈と足でかせいだ調査蓄積のみ。	蔵屋敷認定マニュアル作成し、蔵屋敷１５箇所を認定。蔵奉行人材育成マニュアルを作成し、講習会を実施し、蔵奉行１５名を認定。蔵屋敷回遊モデルツアーを２回実施。
H20（実際に得られた成果）	
・蔵屋敷・蔵奉行委員会を１０回開催し、食の専門家の参加と指導により、蔵屋敷・蔵奉行ネットワークの３つのキーワード（「気構え」「腕前」「「地前」）を基準として設定し、全国のネットワークを実践している早稲田エコステーション研究所との連携によって、1月17日現在、山形、宮崎、鹿児島等9箇所の蔵屋敷・蔵奉行を認定した。（2月末までに１５箇所となる予定） ・認定された蔵屋敷・蔵奉行へのツアーは1月17日現在2回実施し、2月15日までにもう1回実施予定。	

○成果２→	災害時に連携する防災ネットワークを構築するとともに、川筋防災訓練を実施する。
H19	H20（当初予定していた目標）
防災シンポジウムの開催	「災害時の隣のネットワーク協定」を８地域で締結。川筋防災訓練を4回実施。
H20（実際に得られた成果）	
・北前船ルートの山形県酒田市長と大阪市長による防災まちづくりと物流交流のメッセージ交換、大阪府知事と笠岡市長による川筋と海上からの救援物資搬入と受け入れ（川筋防災訓練）を行った。 ・全国１５地域から救援物資に見立てた特産物送付による防災ネットワークを構築した。 ・酒田、大阪市神崎川、大阪市堂島川と道頓堀川、笠岡における川筋防災訓練と防災セミナーを５回実施した。 ・酒田と笠岡では地元商店街と周辺の小中学生や大学生との協働による防災まちづくりの取り組み、商店街と近隣の島々との連携強化、大阪市三津屋地域では地元商店街と地元１４町内会と専門家のコラボレーションによる会場設営及び共同運営（川筋防災訓練）といった協働関係が構築された。大きな成果として、今後全国各地のモデルとなる取り組みである。	

<table>
<tr><td rowspan="15">(8)取組により得られた成果</td><td colspan="2">○成果3→　「ぼうさい朝市＆昼市」の実施により、ネットワークを実稼働させるための顔の見える共同作業場（人と人の顔の見えるビジネスプラットフォーム）をつくる。</td></tr>
<tr><td>H19</td><td>H20（当初予定していた目標）</td></tr>
<tr><td>全国エコステーション商店街等での話し合いと企画段階。</td><td>大阪の川筋、最上川等の北前船ルートの川筋で「ぼうさい朝市＆昼市」を6回開催。（参加者10万人目標）</td></tr>
<tr><td colspan="2">H20（実際に得られた成果）</td></tr>
<tr><td colspan="2">・「ぼうさい朝市＆昼市」を6回開催し、開催地周辺住民73，000人の参加と、北海道から鹿児島まで全国15地域の救援物資に見立てた美味しい特産物とその地域の方々が遠路参加した。
・「ぼうさい朝市＆昼市」の実施により、全国15地域による「顔の見える防災ネットワーク」が構築され、継続的な地域間交流と物流の基礎ができたとともに、このネットワークが地域相互の情報提供・交換の場、また地域活性化の取り組みに役立つヒントが得られる場となっており、今後取り組みを拡大することにより更なる発展が期待できる。
・美味しい救援物資という全国からの特産物により、日頃は防災や川筋に関心のない周辺住民が、防災を意識するきっかけとなり、日頃あまり見ることの無かった川に視線を向けるきっかけとなった。</td></tr>
<tr><td colspan="2">○成果4→　御堂筋沿道の世界のトップブランドのネットワークを構築し、御堂筋を「道のブランド」として環境と景観の向上を図り、世界に向かって情報発信を行い、大阪への集客力の向上を図る。</td></tr>
<tr><td>H19</td><td>H20（当初予定していた目標）</td></tr>
<tr><td>御堂筋オープンフェスタ等のイベントにおいて、世界のブランドが個別参加。（まちかどコンサート、カフェ等）</td><td>御堂筋沿道の世界のトップブランドのネットワークを構築に向けて、準備会議を開催。御堂筋とその周辺地域とビルの環境・景観調査を実施。（屋上緑化、屋上景観ツアー等の調査）</td></tr>
<tr><td colspan="2">H20（実際に得られた成果）</td></tr>
<tr><td colspan="2">・御堂筋は、パリのシャンゼリゼ通りとも相通ずる世界的な景観を持つ大通りであることの認識を打ち出すことができた。
・この景観と世界のトップブランドと世界の料理の店舗集積を、より一層の集客装置にするための環境景観調査を現在実施中。（～2月）
・御堂筋は、川筋との交差部に大江橋、淀屋橋といった歴史的な橋梁があり、大阪の八百八橋の主要部分を担っており、来年度の御堂筋における「ぼうさい朝市＆昼市」の開催企画を立案中である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">○成果5→　情報ネットワークシステムを構築し、蔵屋敷及び各地元との相互の情報交流と特産品物流を図る。</td></tr>
<tr><td>H19</td><td>H20（当初予定していた目標）</td></tr>
<tr><td>各店舗が地元から個別に食材等を取り寄せ。各地元が個別にイベント等を開催。</td><td>特産品物流等の情報受発信システムの構築し、全国20地域を登録してネットワーク化する。蔵屋敷に対して、地元及び全国からの特産品情報を提供し、常時の物流を開始する。大阪の蔵屋敷ツアーと地元ツアーの両方の情報も発信開始。</td></tr>
<tr><td colspan="2">H20（実際に得られた成果）</td></tr>
<tr><td colspan="2">・北前船ルートの山形県最上川の大石田、酒田、長野県飯山、能登半島七尾、福井県小浜、島根県浜田（2地域）、鹿児島市、種子島、愛媛県三瓶町、瀬戸内海の上島町、岡山県笠岡市、大阪市（4地域）、東京、宮城県南三陸、北海道北見の19地域をネットワークすることができた。
・特産物物流と蔵屋敷・蔵奉行ネットワークの情報発信と情報共有のためのホームページは、2月15日を目途に立ち上げる予定で作業を進めている。
・参加地域には、事業継続母体であるLLPの説明を行っており、次年度以降の事業母体とするべく3月中に設立を予定している。</td></tr>
<tr><td>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</td><td colspan="2">・5ヶ月程度の活動期間で、北海道から九州まで全国15地域のネットワークを構築し、6箇所の「ぼうさい朝市＆昼市」の受け入れ地元機関を構築することは、かなりハードで駆け足の活動であった。この活動で作られた協働関係を、次年度にじっくり深めて、地域再生の活動母体としていく必要がある。
・それぞれの地域のばらばらな参加主体を、緩やかに連携しながらも継続できる事業母体に集約するため、全国ﾈｯﾄﾜｰｸのLLPとｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄの核になるLLCの2つの法人を組織する必要がある。
・来年度開催される「水都大阪2009」との連携を図りながら、水都大阪の魅力を創出していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(10)平成21年度以降の活動の見込み</td><td>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</td><td>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</td></tr>
<tr><td>1．蔵屋敷ネットワークの拡大（H21年度）
・「蔵屋敷」の拡大（50箇所へ）
・「蔵奉行」の人材育成（100人）、人材育成システムを全国の地域再生現場へ展開

2．「ぼうさい朝市＆昼市」の実施地域の拡大（H21年度）
・「ぼうさい朝市＆昼市」の実施（大阪10箇所、全国10箇所、参加者20～30万人目標）
・地域活性化及び地域防災リーダーの人材を発掘

3．有限責任事業組合（LLP）の設立（H21年度）
・情報ネットワークシステムを活用した全国特産品の物販
・観光ツアーの実施（大阪蔵屋敷ツアー等）</td><td>1．蔵屋敷ネットワークの拡大（H21年度）
・「蔵屋敷」の拡大（50箇所へ）、「蔵奉行」の人材育成（蔵屋敷との連動で50人、全国の連携地域で20人、合計70人）及び人材育成システムを全国の地域再生現場へ展開

〔活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額500万円）〕

2．「ぼうさい朝市＆昼市」の実施地域の拡大（H21年度）
・「ぼうさい朝市＆昼市」の実施（内容を充実させて、大阪5箇所、全国6箇所、参加者30万人目標）、地域活性化及び地域防災リーダーの人材を発掘（大阪市内と、全国6箇所で）

〔活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額1，750万円）〕

3．有限責任事業組合（LLP）の設立（H21年度）
・LLPはH21.3月、LLCはH21.4～5月に設立して、事業母体として活動を開始する。
・情報ネットワークシステムを活用した全国特産品の物販と地図情報システムも加えた販売情報システムの構築、各地域の資源の再商品化と特産物のピックアップ、周年での特産物の扱いの実証実験
・観光ツアーの情報発信とツアー実施（御堂筋景観＆世界の料理ツアー、大阪蔵屋敷ツアー、川筋ツアー等水都大阪のツアーと、酒田や笠岡など全国各地への大阪からのツアー企画等）

〔活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額350万円）〕</td></tr>
</table>

大阪蔵屋敷ネットワーク（大阪市と北前船ルート各地域）　－NPO法人大阪再生プラットフォーム－

◆主な実施取組の内容◆

蔵屋敷ネットワークの構築と、災害時の隣りから全国ネットワーク…

かつて「天下の台所」と呼ばれた大阪と北前船で結ばれた地方との交流・連携を現代に復活させるため、大阪で活動する北前船ルート各地の出身者を地域連携の核となる人材（「蔵奉行」）と交流拠点（「蔵屋敷」）として育成・認定し、水都大阪と各出身地とを連携してネットワークを構築し特産物の物流と人の交流を促進する。山形県食の親善大使古庄氏等専門家と連携して15の蔵屋敷・蔵奉行を認定。全国15地域とのネットワーク構築。

「ぼうさい朝市＆昼市」…全国から美味しい救援物資がやってきた！

北前船ルートの各地域で特産品の相互交流による物販を川筋で行い、集客により地域活性化を図るとともに、市民が川筋に関心を持ち、日常でも災害時でも川筋を活用できるまちづくりを行った。北海道から鹿児島まで全国15地域から美味しい特産物が集合。山形県酒田、大阪市の神崎川、堂島川、道頓堀、岡山県笠岡で、商店街と地域住民と専門家の協働による防災訓練やセミナー5回と、「ぼうさい朝市＆昼市」を6回開催。参加者73，000人。

北前船ルートで防災ネット

防災をテーマにした地域間のネットワーク構築を目的に、「救援物資」に見立てた全国各地の特産品を販売する「ぼうさい朝市&昼市」が11月2日、大阪市淀川区の神崎川左岸河川敷（阪急神戸線・神崎川駅南西側）を主会場に開かれる。かつて大阪を中心にした「北前船」の往来で栄えた地域を結び、災害時に備えた連携強化につなげる。【井上直樹】

「朝市&昼市」 大阪市で 来月2日

地域再生に携わる早稲田エコステーション研究所（東京）の藤村望洋代表研究員らが企画。江戸期の流通手段だった「北前船」にちなみ、ルート上の各地の商店街に働きかけており、衰退が進む商店街の活性化も狙う。第1回は今月、山形県酒田市で開かれ、今回は淀川区の三津屋商店街や地元住民らが呼応した。会場では、趣旨に賛同

特産品「救援物資」に見立て

地域の連携強化

する島根や岡山、宮城など10以上の地域から届く海産物などを販売。山形の「芋煮」や鹿児島の「豚汁」の炊き出しを実演するほか、特設するモンゴルの住居「ゲル」で防災セミナーなども開く。

また、主会場から約300㍍上流にある府の防災船着場を使い、救命大型ボートへの体験乗船や船着場からリヤカーで物資を運ぶ訓練も行う。

大阪出身の藤村さんは「地方がそれぞれ東京と縦に結びつく『東京一極集中』は既に賞味期限が切れており、これからは地域間の横のつながりが必要。災害が来てからどうするというのでなく、来ていないときにこそネットワークを作っておくべきだ」と話している。

午前11時～午後4時。雨天時は三津屋商店街のアーケード下で開催。一部に事前申し込みが必要なイベントがある。詳しくは、みつや交流亭（050・1505・8627）。

10/28毎日新聞（朝刊）

Eボードで川遡上も試みた。

おいしい"救援物資"届き、炊き出しも。

想定外の人出で、地域通貨も"救援物資"も品切れの緊急事態。地元三津屋の町会の人たちが急拠、焼きそばなどを準備した。

防災船着場から、自転車の後ろに災害時用飲料水を積んで、橋下府知事も会場へ。

◆取組実施による成果・今後の展開◆

成果

・「美味しい救援物資のネットワーク」により、全国15地域の「顔の見える防災ネットワーク」が構築され、防災を日常的な地域間交流と物流へつなぐことができた。
・蔵屋敷・蔵奉行と防災の2つのネットワークにより、地域相互の情報提供・交換の場、また地域活性化の取り組みに役立つヒントが得られる場となっており、今後取り組みを拡大することにより更なる発展が期待できる。
・酒田市、大阪市三津屋、笠岡市においては、地元商店街が周辺住民と協働で地域づくりを行う気運が高まり、地域が元気になるきっかけとなった。

今後の展開

・次年度以降も事業を継続的に実施するため、事業母体として全国ネットワークのLLPを設立（3月）、その核となるコーディネート組織をLLCとして5月に設立を予定。
・この事業母体によって、次年度には蔵屋敷ネットワークを50箇所、蔵奉行を70名、「ぼうさい朝市＆昼市」を11箇所開催し、30万人の参加を目指す。
・また、次年度開催される「水都大阪2009」との連携を図りながら、水都大阪の魅力を創出していく。